



名古屋いのちの電話

1994年度 事業報告



写真 文珠幹夫

風

柳沢 嗣矢

吹いてはやみ、吹いてはやみ、
孤独な者の心の広さをあらわす風。
草木はまた動揺され、ゆれる。
桜は散り、花吹ぶぎの中を歩くほく。
ほくは孤独じゃない。
でも、分かるような気がする。
どこかに孤独な人あれば
行って喜びを分け与えたい。
でも無理な気もする。
広い、広い平原よりも
もっと広い心なんだよ。

柳沢幸子著 母と子の旅立ち

教育を求めて より

「生きる者」の「いのち」

旧約聖書創世記第2章第3章を読む



相浦和生

「いのち」には、生きている間、生涯という意味があります(広辞苑)。であるとすれば、誕生と死の間が「いのち」ということになります。「いのち」の尊厳。このテーマを与えられて、聖書はどうであったかと今一度創世記を読んで見ました。

1. 人間は死なない存在として創造された

「主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」(2:7)。

ここでの「生きる者」は、ネフェシュ・ハイヤー(旧約聖書の言語はヘブル語です)、即ち「命あるネフェシュ」です。ネフェシュは、肉と区別された霊、魂というよりも、人間存在、全人の意味に近いですから、「生きる者」は、生ける人格的存在と解していいと思います。

エデンの園が「生きる者」の生活の場となりました。園では全てが自由だったのですが、ただ一つ、「善悪の知識の木からは、決して食べてはならない」(2:16~17)という神の禁止命令がありました。善悪の知識の木から「食べると必ず死んでしまう」というのがその理由です。この段階で人間の死は未だ語られていません。天地創造神話において、神は人間は死なない存在として創造されたのです。

2. 人間は自らの罪の故に死ぬ存在となった

「生ける者」は神の禁止命令を破りました。蛇が「(善悪の知識の木から食べても)決して死ぬことはない」と「生きる者」を誘惑したからです。その結果、死が人間に入り込んできました。「今は、手を伸して命の木からも取って食べ、永遠に生きる者となるおそれがある」(3:22)。生と同様、死を創造されたのは神ですが、死を生の中

に引き込んだのは人間自身なのです。人間は死ぬ存在となりました。神の命令に背いたからです。聖書はこのことを罪とっています。無論、「生きる者」には、生きることが何で、死が何であるかはわからなかったでしょう。

3. 死ぬ存在としての人間と命の木の関係について

エデンの園には、善悪の知識の木他に「命の木」がありました。命の木は、その名の通り、それを食べることによって永遠のいのち(不死の事)を獲得できる木のことでありますが、墮罪以前には人間は未だ死ぬべき運命を担っていなかった故に「生きる者」にとって魅力はなく、従って禁断の必要はなかった訳です。ところが、人間が死ぬべき存在になったために、「今は、手を伸して命の木からも取って食べ、永遠に生きる者となるおそれがある」(3:22)ということで、神は命の木に至る道を守るために、「生きる者」をエデンの東に追放されたのです。エデンの東とは、罪の秩序の下にある現実の人間世界のことをいいます。

神は「生きる者」を追放しましたが、命の木は破棄されませんでした。このことは、永遠の命への可能性は人間の内にはないけれども、神の恩寵(神の愛といってもいいと思います)として残されているということです。

エデンの園は失楽園となりました。失楽園の失とは、人間が神の祝福としての「いのち」を放棄して、死ぬべき存在となったということです。キリスト教徒は、神が主イエス・キリストの十字架の死と復活の福音を通して死を克服し、永遠のいのちに至らせる道を回復して下さったという信仰に生きています。「いのち」は誕生と死の間だけのことではないのです。

(日本基督教団名古屋中央教会牧師)

相談員の養成講座は人間関係基礎訓練で始まります。電話相談員になるための最初の研修が、カウンセリングでも電話相談のロールプレイでもなく、なぜ人間関係のトレーニングなのでしょう。

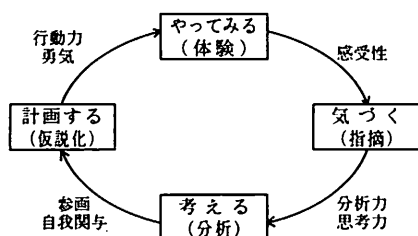
第一には、いのちの電話の相談は、顔も見えない利用者との対話の中で、本当に信頼される人間関係を結ぶ能力が必要とされるからです。

第二には、現在いのちの電話には約140名の相談員がいますが、このボランティア活動のためには相談員の組織化が必要で、様々な仕事を分担する活動グループや相談員相互のサポートグループが働いています。これらのグループがうまく機能するためのリーダーシップやチームワークの訓練も大切だからです。

第三には、相談員の方々が長くボランティアとして活動を続けていくためには、家族や職場や友人の支えを必要としています。相談員には匿名の原則があるので相談員であることを安易に明かすことはできませんが、普段から良好な人間関係を築いておくことが必要だからです。

第四には、基礎訓練の特長である「体験学習」にあります。体験学習によって「体験からの学び方」をマスターしておけば、実際に相談員になったあとで有効です。相談電話の一つ一つの体験を通して自分自身を成長させることができるからです。

「体験から学ぶ」というと簡単に思いますが、私たちにとって日々の体験は体験としてあるだけで、そこから学んでいるという感覚はほとんどありません。おそらく体験から学ぶ方法を明確に意識していないことが体験から学ぶことを少なくさせている原因の一つなのです。



体験から学ぶためにはまず「やってみる」ことです。例えば誰かと話をしたとしましょう。やってみるといろいろなことに「気づき」ます。例えば、話をしているといつの間にか相手が目を伏せて発言しなくなっているのに気づいたとします。自分で気づけないことは他者からの指摘を受けるとよいでしょう。気づくと次に相手がどうして話さなくなってしまったのかを「考え」ます。自分が相手の話を最後までよく聴かずに『それは違う!』

人間関係基礎訓練の意味

山口真人



と言ったために、相手は話す気が無くなってしまったのかもしれない、などと分析できるでしょう。次のステップは分析した結果を用いて変革のための「計画を立てる」ことです。例えば今後からは人の話は最後まできっちり聴こうとか、『違う』とか『駄目』などという評価的な言動はしないようにしよう、などと計画を立てることができます。そして今度は相手の話を最後まできちんと聴くことを「実行」します。この実行は「やってみる」そのものですから、そこから2巡目のサイクルに入ることになります。このようにしてこのサイクルを何度も巡ると「成長」が起こるわけです。

体験から学ぶのが難しいとすれば、このサイクルの矢印の所に障害が起こって先に進まなくなるからです。最初の矢印の所は気づきが少ないという障害ですが、それは「感受性」の乏しさが原因しています。次の考える段階に進むには「分析力や思考力」が必要になります。さらに進んで計画を立てるためには「参画する姿勢や自我関与の態度」が必要になります。最後の実行に移るには「行動力や勇気」が必要です。どの一つが不足しても体験学習のサイクルは停止してしまい、体験は体験しただけに留まってしまいます。

もし私たちが基礎訓練で学んだ「体験から学ぶ方法」を丁寧に実行したら、たった一本の電話からもたくさんを学ぶことが出来るはずなのです。

(訓練委員 南山短期大学人間関係科教授)

1994年度 事業報告

愛知いのちの電話協会の電話相談活動に、ご理解とご支援を賜ります賛助会員、賛助法人並びに寄付者の皆さまに、心よりの感謝を申しあげますとともに一年を通して休みなく奉仕を続けて下さいます相談員の方々にあらためて敬意と感謝を申しあげ、ここに1994年度の事業報告を記させていただきます。

1994年度の主な集会

理事会	3回	総務・10周年記念事業合同委員会	10回
評議員会	3回	愛知電話相談ネットワーク	8回
三委員長会	2回	フリーマーケット	1回
財務委員会	4回	フォーラム	1回
訓練委員会	11回		

理事会報告

開局以来第9年目の年となりました1994年度は1年後に迫りました10周年を控えて、記念事業の企画が次第に固まり具体的な準備に動き出すとともに、この機会に開局以来の念願であります24時間相談体制の実現をめざして、内部的にも又外部に向っても真摯な動きが見られ、期待と結実が次年度に引き継がれることになりました。

相談員養成講座は前年度9月にスタートした第8期養成講座の後半期を実施完結するかたわら、相談員の継続研修、スーパービジョンに今年度も、力を入れて実施することが出来ました。ボランティア相談員諸氏の熱意と訓練指導に奉仕頂きます講師の方々のご尽力に深い敬意と感謝を表はす次第です。

電話相談総受信件数は年間12,975件、開局以来の総受信件数は120,364件に達しました。この年度内には、西尾市内にいじめによる中学生の自殺事件が発生、全国的な社会問題となりました。又阪神地方は大きな災害に見舞われました。いのちの電話に寄せられる社会の期待や、又我々に課せられた使命の重大なことをあらためて認識させられることの多い年でもありました。

賛助会員は本年度も56名の新入会者を与えられ、また法人賛助として、87社より507万円にのぼる賛助寄付を頂くことが出来ました。深刻な不況が続く経済環境の中にもかわらぬ資金上の支援をお寄せ頂きます各法人、団体に厚く御礼申しあげます。愈々10周年を迎えます機会に、個人、法人を問わずいのちの電話への協力支援の輪が更に拡大されますよう願ってやみません。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

理事長	相馬信夫
理事	豊田壽子、笠原 嘉、西沢信正、水谷 巍、長岡利貞、木本精之助
監事	内河恵一、小山 勇
評議員	笠原 嘉、川原 恵、木本精之助、相馬信夫、豊田壽子、西沢信正 長岡利貞、向田正俊、鈴木郁雄、高山貞美、水谷 巍、渡辺宜親 金森タイ、渋澤治子
常務理事	木本精之助

総務委員会報告

今年度の大きな課題は24時間体制についてでした。相談員の中からもり上がってきた気運をふまえ、世話人会で取組んで来られました。これを受けて場所の問題を考えてきたわけです。一方、教会への社会的期待が高まるなかで、いのちの電話の法人がいつ迄も教会の場所提供に甘えるわけにはいかないという事情もあり、移転の問題が真剣に話合われました。赤い羽根基金からの援助の目どはついたものの、土地さがしはままならず、宗教施設とか、公有地の借用とか探してきましたが、いまだ結論に達しません。

賛助会員の募集は継続的な事業として、毎年取組まれています。対象がだんだん枯渇して成果が思うにまかせない状況がつついていますが、その中では木本常務理事の人脈をたどっての拡大が際立っています。

資金活動の一環としてリサイクルバザーを主催しました。真宗大谷派名古屋別院、通称東別院の境内に100店余りのリサイクル店が並び、3000人程の出入がありました。リサイクル誌の広告や中日新聞の協力によってずいぶん人が集まるものです。こうした活動にくわしい長井運営委員らが地割線引きの準備をし、当日は出店者から協力費を集めるわけですが、これだけで約30万円。また、向田財務委員長のランオンズからの物品提供を頂き、当協会も店を出しましたが、こちらも9万円の売上げがありました。

境内、駐車場、付属施設を丸一日無料で開放して下さった別院の賜物であります。5月は雨で流れ残念でしたが11月には実施できました。2回目です。

十周年にむけて記念事業の準備は西沢理事を委員長に早々と着手しました。ブラスバンドの記念コンサートは西沢委員長の手配ですすんでいます。いまだ基本用語の整理すらついていない電話相談の方法論について長岡理事らの手ですすめられています。

いのちの電話全国研修会を記念事業の一環として平成8年11月に召致することを決定しました。

10周年の記念誌には草創期の方々、相談員一人ひとりの目をとおして10年のあゆみをまとめようと準備しています。
(総務委員長 水谷 巍)

訓練委員会報告

☆ かねて欠員中であった訓練委員会に、森崎康宣氏(AJU)と、長瀬治之氏(中部労災病院)の両氏を迎えました。両氏とも臨床心理の専門家で、すでに長くいのちの電話にかかわってこられた方です。両氏の参加で委員会が活性化しました。今後の活躍が期待されます。

☆ 第8期受講生23名が11月1日、めでたく認定されました。3月までの継続研修は、この期の人のためにとくに「はじめて電話をとる」(長岡)と、「電話相談の実際」(斉藤)の2グループが用意されました。電話をとるとき不安と驚き、そのむずかしさとやりがいなど、互いに話しあう中で、電話をとる基礎と基本を体験の中から学びました。

☆ 2月に第9期電話相談員養成講座の募集をしました。25名の応募者があり、そのうち20名が養成講座に参加することになりました。

☆ 登録更新のための研修会が3月末、3回にわけて開かれました。参加者は144名で、登録者は120名です。今度の会は、会のもち方にも工夫が加えられ、話題提供者の短い発表のあと、グループに分かれて話しあう形をとり入れました。率直かつ真摯な話題提供にこたえて、話しあいがいつになく盛りあがりました。

☆ スーパーバイザー懇談会が3月17日開かれました。バイザー3名、訓練委員7名が出席しました。スーパービジョンによる訓練の意義やあり方をはじめ、バイザーとしての問題点、バイザーへの注文、またバイザーからの要望事項などを中心に懇談しました。基本的にはこの訓練方法の有効性が確認されました。

☆ 十周年記念行事が目前に迫ってきました。これを充実したものにするため頑張りたいと考えています。

(訓練委員長 長岡利貞)

財務委員会報告

1994年度の収支をご報告申し上げます。昨年度のわが国の景気は減税措置が実施されましたが、企業収益は低迷し、個人の家計にも影響が出て参りました。この結果、収入は昨年度に続き予算を下廻り、事業費収入では予算2,048万円に対し、717万円余の減収に終わりました。

特に法人会費、寄付金（団体・個人）からのご協力の減少が予算を下廻る結果となりました。

このため、事業費の支出面は、家賃の増額などのやむを得ない項目は別にして、経費の節減に努力を致し予算額の1,805万円に対して、1,381万円にとどめて参りました。然しながらこの収支の悪化に伴い、基金繰入れの予算400万円は達成することは出来ず、基本財産の利息収入のみにとどまり、年度末基金は、35,271,108円となりました。

95年度予算としましては、関係各位のご意見をいただき、検討を重ねました結果、今年度は創立10周年

1994年度収支計算書

借 方 (支出の部)		貸 方 (収入の部)	
科 目	1994年度決算額	科 目	1994年度決算額
事業費支出		事業収入	
教育・訓練費	2, 175, 431	助成金	550, 000
広報費	617, 030	共同募金配分金	600, 000
調査・研究費	89, 569	会費(法人)	5, 070, 000
渉外費	0	会費(個人)	55, 000
特別事業費	108, 457	賛助会費(A)	1, 740, 000
職員給与	5, 040, 000	賛助会費(B)	855, 000
賞与	1, 470, 000	賛助会費(C)	468, 000
貸金	0	協力会費	0
退職金	0	相談員の会費	155, 000
法定福利費	44, 537	寄付金(個人)	1, 152, 065
福利厚生費	0	寄付金(団体)	672, 000
退職引当金	0	年末募金	1, 160, 210
旅費・交通費	709, 190	後援会(個人)	0
通信費	456, 175	後援会(団体)	0
電話料	223, 286	特別事業収入	417, 015
印刷費	217, 110	講座受講料	364, 000
事務用品費	68, 183	基金募金収入	50, 000
会議費	30, 243	事業外収入	
郵便振替負担料	39, 000	繰入金	0
支払手数料	7, 933	引当金戻入	0
連盟負担金	293, 000	設備資金借入収入	0
諸会費	17, 000	積立金戻入	0
共益費	1, 020, 000	受取利息	821, 474
水道光熱費	680, 000	雑収入	133, 070
消耗品費	130, 749		
備品費	0		
営繕費	100, 106		
租税公課	30, 726		
抛 outcomes	210, 000		
保険料	0		
雑費	41, 675		
事業外支出			
元利償還金	0		
支払利息	0		
繰入金支出	0		
雑支出	0		
固定資産取得額	0		
積立金繰入	0		
基金繰入	786, 804		
小 計	14, 606, 204	小 計	14, 262, 834
前期繰越剰余金	4, 735, 418	前期繰越剰余金	4, 735, 418
当期剰余金	-343, 370		
合 計	18, 998, 252	合 計	18, 998, 252

の基金募集をお願い致しますこと、またこの為の記念行事を行なうこととなり、収支面からは通常の会費、寄付金の他に、関係法人、個人からのご協力をお願いすることとなります。

収入予算については、事業費収入として2,164万円、基金繰入として290万円とさせていただきました。収入については、公的団体への助成金の増額に努力をして参る考えであります。基金繰入れにつきましては、10周年募金で増加を考えておりますが、当初の福祉法人格取得については、早い機会に1億円達成の要請を受けておりますので、この事情についてのご理解、ご協力をいただき度お願い申し上げる次第でございます。

会員各位に対しましては、極力この事業について一層のご理解をいただき、資金面から、一日も早く24時間体制を確立することができる基盤を達成したいと考えております。

この度の阪神大震災に対しまして、当協会から寄付金をお贈り致しました。また各位からの特別の募金についてご協力をいただきましたことをご報告申し上げますとともにお礼申し上げます。

(財務委員長 向田正俊)

1995年度予算

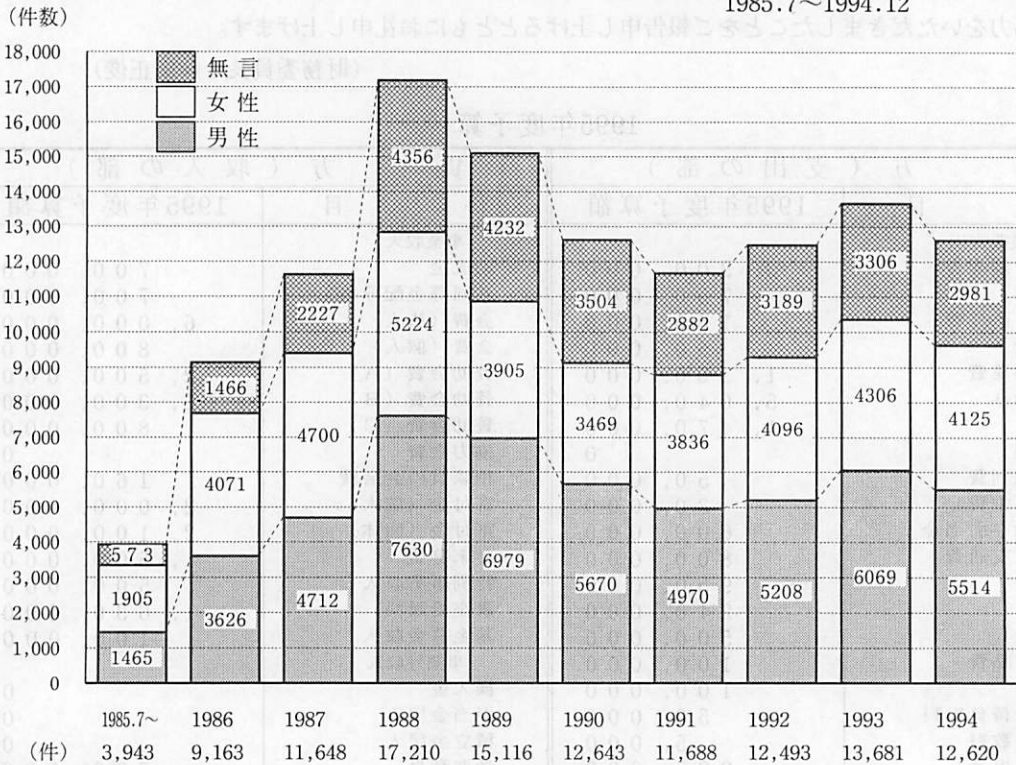
借 方 (支 出 の 部)		貸 方 (収 入 の 部)	
科 目	1995年度予算額	科 目	1995年度予算額
事業費支出		事業収入	
教育・訓練費	3,300,000	助成金	700,000
広報費	750,000	共同募金配分金	700,000
調査・研究費	100,000	会費(法人)	6,000,000
渉外費	50,000	会費(個人)	800,000
特別事業費	1,300,000	賛助会費(A)	2,500,000
職員給与	5,040,000	賛助会費(B)	1,300,000
賞与	1,470,000	賛助会費(C)	800,000
退職金	0	協力会費	0
法定福利費	50,000	相談員の会費	160,000
福利厚生費	30,000	寄付金(個人)	2,000,000
退職給与引当金	600,000	寄付金(団体)	2,100,000
旅費・交通費	800,000	年末募金	1,500,000
通信費	950,000	特別事業収入	500,000
電話料	240,000	講座受講料	1,630,000
印刷費	500,000	基金募金収入	100,000
事務用品費	100,000	事業外収入	
会議費	100,000	繰入金	0
郵便振替負担料	50,000	引当金戻入	0
支払手数料	5,000	積立金戻入	0
連盟負担金	295,000	受取利息	700,000
諸会費	20,000	雑収入	150,000
共益費	1,440,000		
水道光熱費	960,000		
消耗品費	150,000		
備品費	50,000		
営繕費	100,000		
租税公課	70,000		
拠出金	100,000		
保険料	20,000		
雑費	100,000		
事業外支出			
固定資産取得額	0		
基金繰入	2,900,000		
小 計	21,640,000	小 計	21,640,000
当期剰余金 (翌年度繰越金)	0	前期繰越剰余金 (前年度繰越金)	0
合 計	21,640,000	合 計	21,640,000

グラフで見る名古屋いのちの☎

○10年間の受信件数の推移 (1985年7月～1994年12月)

1985年からの総受信数は117,224件で、相談員との会話がなかった無言電話28,716件をのぞくと相談電話の受信数は88,508件となります。(1994年12月31日現在)
1994年は1日あたり26.4件の相談電話を受信しています。

1985.7～1994.12

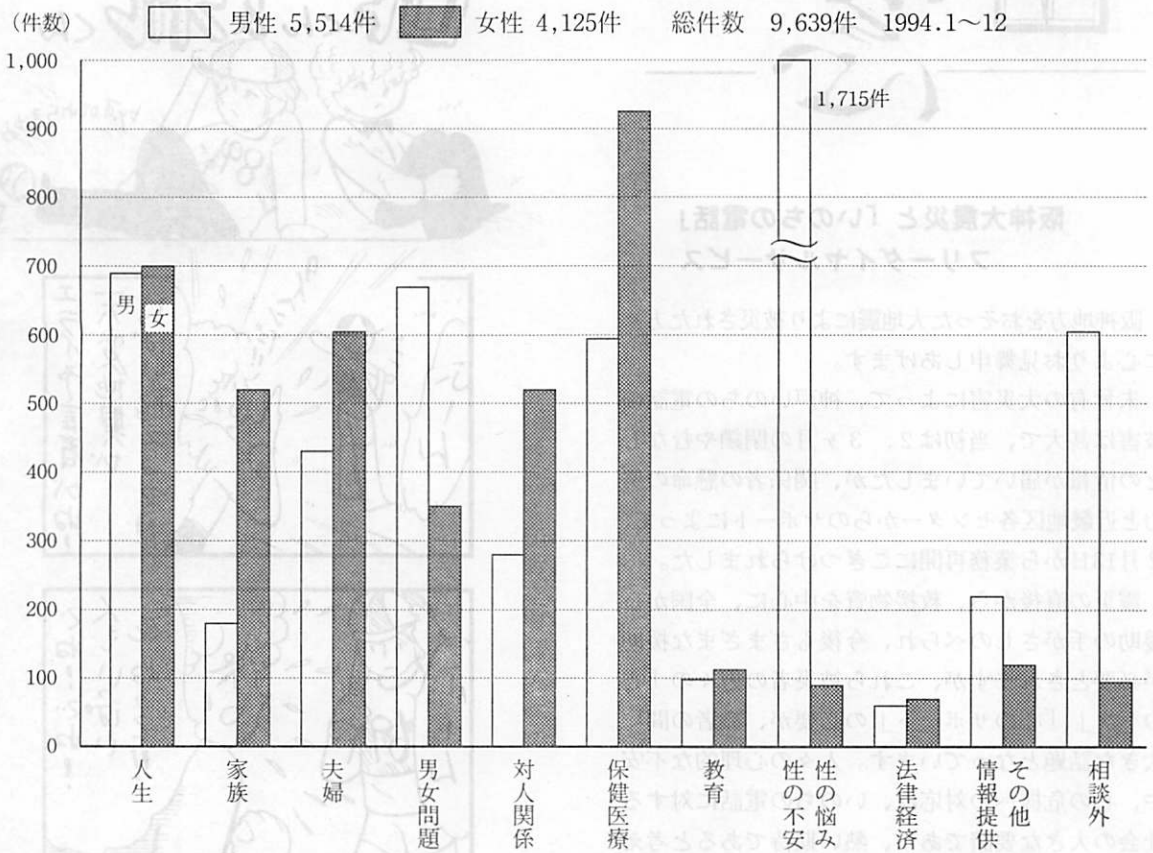


相談内容

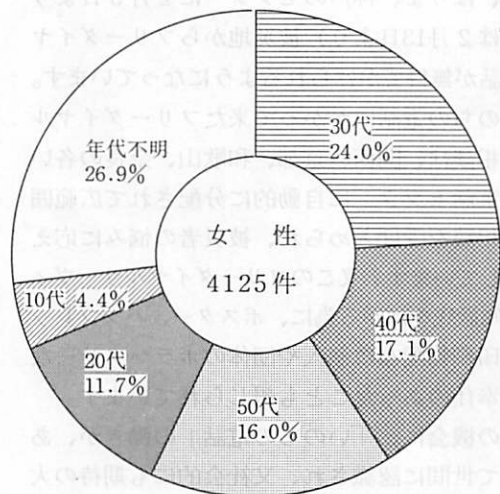
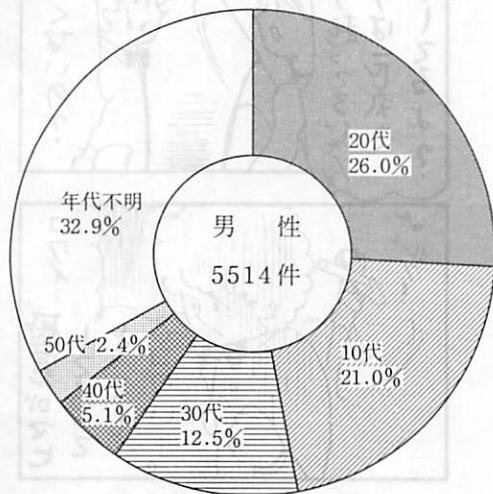
男性の相談で最も多いのが性の不安や悩みで、その細かな内容は〔性の疑問・不健全な性・近親姦・性の病気の順〕で、全体の31%をしめています。次に人生問題〔生き方・孤独・職業・性格・自殺の順〕(12%)、男女問題〔肉体関係・恋愛・結婚・ボーイフレンド・ガールフレンドの順〕(12%)、相談外〔からかい、いたづら・テレホンセックス・非難の順〕(11%)となっており、これらを合計すると67%になります。

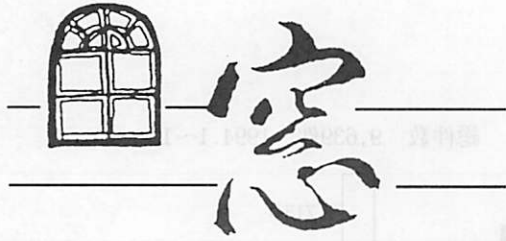
女性の相談は保健・医療が最も多く、〔心の不安・神経症的訴え・精神の病気・身体の病気の順〕(23%)、次に人生問題〔生き方・孤独・職業の順〕(17%)、夫婦問題〔不満、不和・浮気・性生活・離婚の順〕(15%)、家族問題〔相互理解・嫁姑・親戚・親離れ子離れの順〕(13%)となっており、これらを合計すると67%となります。

○相談内容男女別の相談件数



○男女別・年代別の相談件数





阪神大震災と「いのちの電話」 フリーダイヤルサービス

阪神地方をおそった大地震により被災された方々に心よりお見舞申し上げます。

未曾有の大災害によって、神戸いのちの電話の被害は甚大で、当初は2、3ヶ月の閉鎖やむなしとの情報が届いていましたが、関係者の懸命の努力と近畿地区各センターからのサポートによって、2月13日から業務再開にこぎつけられました。

震災の直後から、救援物資を中心に、全国から援助の手がさしのべられ、今後もさまざまな援助が必要とされますが、これら被災者の方々の「心のケア」「心のサポート」の必要が、識者の間に大きな話題となっています。人々の心理的な不安や、心の危機への対応は、いのちの電話に対する社会の大きな要請であり、熱い期待であると考えられます。こうした状況の中で、郵政省、NTTの協力によって、近畿ブロック内の「いのちの電話」にフリーダイヤルサービスが開設されました。

関西、はりま、神戸のセンターに2月3日より（神戸は2月13日より）被災地からフリーダイヤルの電話が無料でかけられるようになっています。関西いのちの電話にかかって来たフリーダイヤルによる相談は、関西、京都、和歌山、奈良の各いのちの電話センターに自動的に分配されて広範囲に電話相談を受けとめられ、被災者の悩みに応えようとしています。又このフリーダイヤルサービスの周知徹底をはかる為に、ポスター、パンフレット等の印刷物配布に個人や団体のボランティアな協力の奉仕のあったことも報じられています。

災害の機会に、「いのちの電話」の働きが、あらためて世間に認識され、又社会的にも期待の大きいことが感じられます。



ご援助ありがとうございます

1995年1月1日より4月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共にご報告申し上げます。(順不同・敬称略)

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

理事長 相馬 信夫

財 務 委 員 会

賛助会員 A

佐藤 あさ子	須藤 よし子	河村 久子	尾崎 幸夫	枋久保 滯子	名古屋学院大学
前田 豊子	堤 肇	永井 洋子	片山 主水	林 晃	宗教部
豊田 幹司郎	宮 木 邦蔵	竹谷 とき子	吉田 弘明	千 春	金城教会
杉 彬子	靖 潤子	山 早苗	梶 原 正 寿	吉 田 好 枝	社会委員会
木村 晴子	長 井 明宏	岡 利悦	伊佐治 井 上 耕 一	法 用 涉	カトリック
生田 純子	三 宅 史郎	○勝 木 悦順	井 服 上 部 みやぶ	雪の聖母幼稚園	蟹江教会
森 宜子	西 田 史郎	橋 本 順子			

賛助会員 B

一ノ瀬 文枝	榎 戸 佳子	○鈴 木 修子	西 村 洲衛男	○阪 口 綾子	日本福音ルーテ
島 吉枝	金 森 なを	梶 原 久江	末 田 香里	河 原 博子	ル希望教会
森 部 暁子	中 北 昌美	戸 田 伊助	高 本 一 子	高 本 香代子	
宇佐美 夏子	松 隈 愛子	軽 部 倫子	神 戸 一 子	大 塚 博子	

賛助会員 C

林 周子	山 崎 京子	望 月 武雄	村 山 一 枝	鬼 頭 鐘二郎	杖 山 達 雄
坂 井 洋子	能 登 みい子	鈴 木 国 弘	細 江 繁 幸	矢 野 博子	杉 浦 ます子
足 立 克己	西 野 友 英	近 藤 多 美	齊 藤 松次郎	直 井 滋 子	水 谷 敦 美
中山 野 公子	三 緒 子	山 田 敦 代	渡 辺 邦 俊	安 田 武 夫	太 田 川 恵 介
山 野 真 理	服 部 由 美	河 田 い さ	内 堀 な つ 子	中 井 文 子	中 川 晋

クリスマス・歳末募金

須藤 よし子	社会福祉法人聖霊病院	日本基督教団南山教会	日本聖公会一宮聖光教会
中 谷 塩子	日本基督教団豊山教会	名古屋YWCA	日本基督教団東海教会
高 嶋 剛三郎	日本基督教団敦賀教会	宗教法人建中寺	カトリック日比野教会
平 井 瑞子	日本基督教団鳴海教会	カトリック五反城教会	日本聖公会名古屋聖ステパノ教会
石 田 夏 江	日本基督教団桜山教会	日本基督教団豊田教会	名古屋神召基督教会
芝 原 慶 次	名古屋YMCA	金城学院	日本基督教団名古屋中央教会
ゆかり	日本基督教団名古屋西教会	日本基督教団岡崎茨坪伝道所	日本基督教団名古屋東教会
	日本福音ルーテル希望教会	日本基督教団愛知守山教会	カトリック善潮教会

寄付金

吉田 紀子	溝 口 キミ子	上 田 きよ	生 川 和子	朝 倉 夏雄	安 田 武 夫
浜 本 孝子	田 昌子	長 岡 利 貞	山 下 昌子	建 子	
内 川 正 邦	島 田 吉 枝	佐 藤 辰 一	西 村 洲衛男	○川 崎 秀 子	
伊 神 紀久子	見 木 靖 美	渡 辺 宜 親	水 野 享 好	柳 沢 倭 子	
川名山聖霊修道院	岐阜カトリック教会壮年会	栄冠幼稚園		日本基督教団広路教会	
名古屋学院大学宗教部	カトリック半田教会	金城教会社会委員会		日本基督教団名古屋北教会	
名古屋共栄証券株式会社	雪の聖母幼稚園	日本基督教団愛知教会婦人会			

〈法人賛助〉

林紙産業株式会社

〈助成金〉

社会福祉法人東海テレビ福祉文化事業団 中日新聞社会事業団
 上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただきます。
 ○印の方は1994年度賛助会員募集運動に協力し入会して下さった方々です。

点滴

今日も深い悩みの相談電話を受けて、重い心で家路に急ぐ私に夜の街灯りに映し出された白いつつじの花が語りかけてくれました。私が生まれ育った越後の春は、雪どけの畑から黒々とした土と匂いが、長い冬ごもりの終りを知らせ、まぶしいほどの太陽がふりそそぎ、梅も桜も一度に咲き出す。めぐりの春は人生の旅路に於ても希望となぐさめとなってくれているのでした。世間を騒がしているオウム教のメンバー達は、人為的ストレスと、くりかえされる洗脳によって、テレビに出てくる人達でさえ能面よりも生気を失ってしまっている。自然にはぐくまれて高揚していく人間性からは遠く離れているように見えました。知恵でない知識のつめ込み生活の躰の軽視。土にふれない人たちが大自然の静寂の中から語りかけてくるものに心耳を澄ませれば人知を越えた偉大なるものに出会え、大自然の存在は深く、雄大であり、それに比べて人間は小さく見えてくる。

連休に訪れた「生命山カトリック別院」は山道をのぼること4キロ、急にパッと視界がひらける。東阿蘇外輪の山なみ、南に東熊本、その右手に金峰山がそびえ、西は玉田市と向こうに有明の海、島原半島、普賢岳は度々の噴火で山肌が露出しているが美しい姿を見せている。自然にかこまれた生命山は静けさそのものでした。ここでは生活のリズム、心のリズムが自然と調和するようになっていました。重かった心をいやされて、明日からの電話も心を開いて聴いて行こうと思っています。

(Y. S)

10周年記念事業

開局10周年記念式・感謝会

日時 1995年10月27日(金) 15:00~18:00
 場所 アイリス愛知 (県産業貿易館南隣)
 名古屋市中区丸の内二丁目5-10
 記念式典と感謝パーティー

10周年記念誌刊行

記念式にあわせて発行する

いのちの電話全国研修会

日時 1996年11月15日(金)~17日(日)
 場所 名古屋国際会議場

記念コンサート

日時 1995年11月4日(土) 14:00~17:00
 場所 名古屋港湾会館 (地下鉄 名古屋港駅西)
 新日鉄名古屋製鉄所吹奏楽団
 岡崎市民吹奏楽団
 野村勤 (フルート演奏)

記念出版

電話相談ハンドブックを刊行する。

10周年記念基金募集

募集期間 1995年5月 ~ 1995年12月末

愛知いのちの電話協会日誌

- 1月9日 総務・10周年記念事業合同委員会
- 20日 愛知電話相談ネットワークの会
- 23日 事務ボランティア新年会
訓練委員会
- 2月1日 中日新聞社会事業団より歳末義援金受領
- 10日 財務委員会
- 13日 ベルの会
- 20日 理事会・評議員会
訓練委員会
- 27日 総務・10周年記念事業合同委員会
- 3月3日 24準備委員会
- 10日 日本いのちの電話連盟理事会(大阪)
- 15日 愛知電話相談ネットワークの会
- 17日 スーパーバイザー打合せ会
- 20日 訓練委員会
- 25日 登録更新研修会
- 27日 登録更新研修会
総務・10周年記念事業合同委員会
- 4月6日 共同募金配分決定書交付式
- 8日 ベルの会親睦会 (東山荘)
- 14日 財務委員会
- 15日 9期養成講座受講者面接
訓練委員会
- 17日 世話人会
- 24日 総務・10周年記念事業合同委員会
- 25日 9期養成講座開講

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします
 いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。
 年間2,000万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立の課題を与えられております。
 会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。
 法人となり寄付金の税法上優遇措置が受けられません。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員(年間1口)
A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です。
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会
 理事長 相馬信夫
 口座番号 東海銀行大津町支店(普) 477029
 郵便振替口座 00810-8-53758

お問い合わせは…

社会福祉法人愛知いのちの電話協会
 事務局 ☎ 971-5181

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

1995年初夏

名古屋いのちの電話

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱第257号

事務局 ☎ 052-971-5181

相談電話 ☎ 052-971-4343

郵便振替口座 00810-8-53758

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

1995年6月1日発行

発行人 相馬 信夫

編集人 広報委員会